

## 「いつもの顔」は何処へ行った？

布施重紀



さて、今回の例会には間に合わなかったものの、10月22日には『ジェーン』、明けて2017年1月末には『荒野の七人』のリメイク作である『マグニフィセント・セブン』(何て芸の無いカタカナ題名だ!)と、2本の新作西部劇の劇場公開が決まったことは、我々ウエスタン・ユニオンメンバーとしては嬉しいかぎり。皆さん、できるだけ映画館に足を運びましょう。

嬉しい反面、両作の配役表に目を向けると、筆者がここ10数年感じている残念な点が見受けられる。それは、「西部劇的な顔がまた見られない」ということだ。

西部劇の魅力、好きなポイントを挙げていけばキリが無いが、筆者にとってかなりのウエイトを占めるのが役者の顔(ぶれ)だ。各年代ごとに主演・助演格・脇役に至るまで、西部劇には「らしい顔」というものがあつた。

「ああ、またあの野郎が出ている」、「あいつ、また裏切ることかと思ったら、今回はいい役だった」、「あーあ、また最後まで生き残れなかった」等々、脇を固めるキャラクター・アクター(通訳が見つからないのでカタカナでご勘弁を)、ジャンル俳優を見るのは大いなる楽しみのひとつだった。

悪党、相棒、爺さま、町の人……。思いつくままに年代問わずに筆者の思いついた「西部劇らしい脇の顔」を挙げてみたい。ベン・ジョンソン、リー・ヴァン・クリーフ、リチャード・ジャッケル、ウォルター・ブレナン、レオ・ゴードン、ジョン・アイアランド、ジョン・ラッセル、ローヤル・ダーノ、ハンク・ウォーデン、ボブ・ウィルキ、R・G・アームストロング、アルバート・サルミ、ジョン・デイヴィス・チャンドラー、ポー・ホプキンス、ルーク・アスキー、ダブ・テイラー、ブライアン・キース、フォレスト・タッカー、ハリイ・モーガン、エリシャ・クックJr.、ネヴィル・ブランド、L・Q・ジョーンズ、アーサー・ハニカット、ストローザー・マーティン、ハリイ・ケリーJr.……。キリが無いのでこのくらい。まだまだ挙げ足りないほど、いい顔があつた。

例えばリチャード・ジャッケル。東宝、東映両社の日米合作 SF 特撮映画に招かれたと思えば、アクの強い顔の揃った『特攻大作戦』ではリー・マーヴィン、ブロンソンと共に最後まで生き残り、探偵映画『新動く標的』では憎々しい汚職デカ役、『グリズリー』、『アニマル大戦争』、『大襲来! 吸血コウモリ』なんてゲテモノでは数々の動物とも闘った。そんなジャッケルさんも、最も輝くのが、やはり西部劇だ。G・ベックに挑戦する若僧を演じた『拳銃王』をはじめ『決断の3時10分』、『カウボーイ』、『燃える平原児』、『チザム』、『ピリー・ザ・キッド/21歳の生涯』と大活躍し、傑作『ワイルド・アパッチ』での古参騎兵隊軍曹役で渋い名演を見せてくれた。アメリカ人としてはチビな体格ながら、それを補う存在感で、97年に亡くなるまで観客を楽しませてくれる得難いキャラクター・アクターだった。

80年代以降、90年代末期くらいまでに作られた西部劇には、よくそんな懐かしみの脇役俳優の顔が見られたものだ。作り手からのある種、敬意のこもったキャスティングは、一部の観客にとって、そして重用された俳優にとっても嬉しいことだったろう。

『バイルライダー』(85年)の悪徳保安官ジョン・ラッセル、『シルバラード』(85年)ではシェブ・ウーリーが騎兵隊長役で一瞬顔を見せた。『ヤングガン』(88年)は大物揃いで、ジャック・バランス、ブライアン・キースが敵に廻り、バット・ギャレット役には、かつて『復讐のガンファイター』(66年TV放映)でバット・ギャレット・Jr.を演じたバトリック・ウェイン! SFシリーズの大ヒット作『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART III』(90年)の舞台は開拓期の西部。『アウトロー』(76年)の好演に続いてバーテンダーを演じるのはマット・クラーク。その店の常連のジイさん達はハリイ・ケリーJr.、ダブ・テイラー、バット・バラムのベテラン3名。機関士役でビル・マッキニーも顔を見せていた。ジョン・フォードに見出された黒人俳優ウディ・ストロードは『黒豹のバラード』(93年)の語り部、『クイック&デッド』(94年)の葬儀屋役でキャリアの末期を飾った。TV西部劇の映画化作品『マーヴェリック』(94年)は、にぎやかすぎる顔ぶれが楽しめた。オリジナルキャストのジェームズ・ガーナーをはじめ、ジェームズ・コバーン、ジェフリー・ルイス、デンヴァー・パイル、レオ・ゴードン、ウィリアム・スミスといった悪役陣に加え、TV西部劇黄金期を支えた布陣、ロバート・フラー、ジェームズ・ドルーリー、ダグ・マックルアーア、ポール・プリネガーといった豪華なメンバーが顔を揃えていた。

残念ながらそういったかつての俳優達の多くは鬼籍に入り、西部劇そのものの本数の減った現在、新規の“西部劇らしい顔”をした常連俳優もなかなか根づかない。80年代以降、西部劇、現代西部劇への出演が続いていたジェームズ・ギャモン作品には『シルバラード』(85年)、『ミラグロー 奇跡の地』(88年)、『ワイアット・アープ』(94年)、



James Gammon

Buck Taylor

Rex Linn

『ワイルド・ビル』(95年ビデオ公開)、『ハイロー・カントリー』(98年)、『最後のガンマン/悪名の町』(89年 TV 放映)、『MONTE WALSH』(2003年、未公開・リメイク作)、『アパルーサの決闘』(08年DVD公開)等があったが、2010年に70歳で死去した。

期待のレックス・リンは、西部劇好きなら観ておいて損は無い現代劇『サンダーハート』(92年ビデオ公開)、『ブレーキ・ダウン』(97年)をはじめ、『ワイアット・アープ』、『孤独なる銃声』(97年TV放映)、『ジャック・ブル』(99年DVD公開)、『クロスファイア・トレイル』(01年TV放映)、『MONTE WALSH』、『アパルーサの決闘』、『ジャンゴ 繋がれざる者』(12年)、『荒野はつらいよ』(14年)と出演が続いているのは、頼もしいかぎり。しかし新顔に見えても御年60歳。少々老けてきたのは否めない。

ダブ・テイラーの息子バック・テイラーも、『トゥームストーン』(93年)で目立って以降、『アラモ』(04年)、『カウボーイ&エイリアン』(11年)といった公開作や未公開西部劇に多数出演し、健在ぶりは嬉しいものの御年78歳、いつまで頑張れるものやら……。同じ、『トゥームストーン』でバワフルな悪党を演じたパワー・ブースとマイケル・ビーンの2人には、西部劇での活躍を大いに期待したが、ブースは残念ながら本邦未放映に終わった TV シリーズ『DEADWOOD』(04~06年)のみ。ビーンはファーストシーズンのみTV放映された『荒野の七人』(98~00年)でクリス役を好演したが、以降、『ブッチ&サンダンス 伝説のアウトロー』(06年TV放映)と『YELLOW ROCK』(11年未公開)の2本があるのみ。他にもスタントマン・監督・俳優として今も作品を発表し続けるデヴィッド・S・キャス・Sr.や、銃器コレクターでもあるピーター・シュレイコウといった人もいるのだが、いかんせんマニアックすぎる人選だろう。

『ジューン』も『マグニフィセント・セブン』も、心から楽しみにしているし、新作西部劇が公開されるだけでも本当に有り難いことだ。見知った顔、らしい顔が見受けられないのは残念だが、考えてみればオリジナルの『荒野の七人』とて、公開当時は西部劇未経験のユル・プリンナーと、“ドイツのジェームズ・ディーン”の触れ込みのホルスト・ブッフホルツが顔を知られていた程度。あとのキャストは、悪相の脇役やTV界から出てきた若僧でしかなかったはずだ。

願わくば『マグニフィセント・セブン』の7人から、今後の西部劇を代表する顔となる俳優が現われてほしい。そして、このジャンルが活性化して、新たな西部劇の常連俳優が多数輩出されることを望みたいものだ。

第29回東京国際映画祭で、特別招待作品、関連連作品の中に、米国史劇や西部劇が上映されますので、お知らせいたします。

第29回東京国際映画祭が、今年も10月25日から11月3日まで、六本木ヒルズ、EXシアター六本木ほかで開催されます。その中で特別招待作品として、1830年に起きた黒人奴隷ナット・ターナーの反乱を描いた実話に基づいた映画、『バース・オブ・ネイション』が上映されます。上映会場、日程等の詳細は現在まで未発表のため、ネット等でご確認願います。

また、これに合わせて、京橋のフィルムセンターでは、UCLA映画テレビアーカイブ・復元コレクションから、『荒野の決闘』の非公開試写版(DVDにて市販済み)をはじめ、西部劇ファンには見逃せないバド・ペティカー監督、ランドルフ・スコット主演の『七人の無頼漢』、ウェスト・ヴァージニアの炭鉱ストライキで起こった最悪の銃撃戦を描いた『メイトワン1920』が上映されます。

・・上映日程・・

『荒野の決闘』

10月25日(火) 19:00PM(大ホール)

11月 3日(木) 13:00PM(大ホール)

『七人の無頼漢』

10月26日(水) 15:00PM(大ホール)

11月 3日(木) 16:00PM(大ホール)

『メイトワン1920』

10月28日(金) 15:00PM(大ホール)

11月 5日(土) 16:00PM(大ホール)

ブロードウェイから「ハリウッド西部劇映画傑作シリーズ DVD-BOX Vol.18」が11月2日に発売されます。今回の内容は、『赤い溪谷』、『ロビン・フッドの復讐』、『サドル・トランプ』、『夢想の楽園』、『テキサスから来た男』を収録。中でも『ロビン・フッドの復讐』は、無法者ホアキン・ムリエッタを主人公にしたウィリアム・ウェルマン監督戦前の傑作西部劇です。『赤い溪谷』(1949)はジョージ・シャーマン監督、アン・ブライス、ハワード・ダブ主演の日本未公開作。来春には第19集が発売されるとのことです。